



小平町長 関次雄

年頭にあたって

新年あけましておめでとう
ございます。

令和6年の輝かしい新春を町民の皆様とともに迎えることができましたことを心からお慶び申し上げますとともに、日頃より町行政の推進にあたり、深いご理解とご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。

本年もどうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、昨年の主要産業の農業においては、水稲は移植後の低温により初期生育に影響が出たものの、7月以降の

高温、更にそれ以降の記録的な高温と8月の台風による強風と雨の影響により、多くの圃場で倒伏が見られ心配されましたが、目標出荷数量は確保することができ安堵しているところではありますが、品質においては、近年にない低下となっております。畑作・野菜類・花卉・肉牛等についても、記録的な高温の影響などから、農畜産物全体の販売額は計画額を下回る結果となっ

ております。

また、漁業におきましても、8月・9月に海水温が異常に上昇し、ホタテ成貝が斃死する事態となり、さらに秋サケ漁の不漁と漁獲高は減少となっております。

こうした現状ではありませんが、本町における1次産業の活性化は、新たな産業や雇用の創出につながる原動力となるもので、今後も1次産業を主体とした果敢な施策の展開が極めて重要でありますので、必要な施策を随時実施してまいります。

昨年を振り返りますと、日常生活や社会経済活動に多大な影響を与えた新型コロナウイルス感染症の位置付けが、昨年5月より5類感染症に移行したことを受け、以前のよ

まる新年度の予算編成は、町内学校など教育関連施設や老人福祉施設等への冷房設備整備のほか、子育て支援施策を引き続き推進するとともに、年次計画的な公営住宅の改善・橋梁長寿命化工事、上下水道施設の施設更新といった

インフラ整備を継続し、6カ年で実施している鬼鹿漁港岸壁の改修や堆肥製造センター改修工事、町有林整備などに

より資産の充実を図り、活気にあふれ誰もが安心して住み続けられるまちの創生に全力で取り組んでまいります。また、昨年11月に脱炭素社会の実現に向け、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し、「小平町ゼロカーボンシティ」を宣言したところであり、地球温暖化をはじめとする環境問題に、次世代が安心して暮らすことのできる“ゼロカーボンシティの実現”を目指して、後世に引き継ぐべき施策を実施してまいります。

このような中、まもなく始

結びに、町民皆様の町政へ

のなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、町民皆様にとりまして、本年も平穏で明るく、希望に満ちた幸多き年でありますことを心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

